

豊中 秋の七草調査 2014



ススキ 羽鷹池

2015年3月
NPO 法人とよなか市民環境会議アジェンダ 21
自然部会

正 誤 表

誤

正

P10 アキノキリンソウの

右下株数説明の 1~2株 → 1~9株

P14 (7) ワレモコウの6行目

……とる必要である →必要がある

P23 メッシュ 17 の3行目

グズ → クズ

目 次

1. はじめに	2
2. 調査の方法	3
調査用メッシュ図	4
3. 豊中 秋の七草図絵	5
4. 調査結果	
①七草メッシュの確認状況	6
②各メッシュの7種の割合と全体図	7
③7種の分布状況の推移	8
④メッシュ別7種の確認状況	9
⑤7種の分布状況	10
⑥確認株数の推移	12
5. 調査結果の分析と考察	
①各種分布状況の考察 ～前回(2001年度)との比較～	13
②調査結果から分かること	15
6. おわりに	17
7. 調査協力者の感想	18

1. はじめに

古来、万葉集にも歌われた秋の七草はハギ、ススキ、キキョウ、ナデシコ、オミナエシ、クズ、フジバカマですが、豊中ではこの7種中3種しか見られなくなりました。現在観察できるハギ、ススキ、クズの3種にアキノキリンソウ、ツリガネニンジン、ミゾソバ、ワレモコウを加えた7種を「豊中の秋の七草」とし、13年前に行なった調査と比較して私達の町の自然がどう変わったのか、現在の豊中の自然がどういう状況なのかを調べました。山地性、草地性、湿地性それぞれの特徴を持つ植物を選定し、市全域を市民調査員が手分けして歩き、まとめた調査です。

私達のまわりから人知れず消えていく植物はないか、存在すら確認されずに開発等により絶滅する植物がないように願って「希少植物調査・とよなか〜レッドデータブック豊中〜」（2008年 NPO法人 とよなか市民環境会議アジェンダ21自然部会作成）を編纂しました。今回の「豊中 秋の七草調査」報告も同様の趣旨で豊中の原風景を物語る野草達を大切に思う心が底辺にあります。

生物多様性の時代と言われて久しいですが、豊中の現状はむしろその流れに逆行しているように思えます。20年前に制定された「豊中市環境基本条例」に書かれた自然と共存する都市の実現が文言だけで終わることのないよう、今こそ私達の具体的な努力が試されているのではないのでしょうか。



クズ 千里東町公園

2. 調査の方法

① 調査の目的

1999年から3年間、とよなか市民環境会議自然部会で「豊中版秋の七草調査」を実施した。それから13年、豊中の植物は健在だろうか。身近な自然に親しみながら調査を継続していくことで、豊中の自然の実状を確かめる。

② 調査方法

(1)調査期間 2014年9月14日(日)～10月15日(水)

(2)調査範囲 豊中市内全域

(3)調査対象 アキノキリンソウ、クズ、ススキ、ツリガネニンジン、ヌスビトハギ、ミゾソバ、ワレモコウの7種にセイタカアワダチソウ、ヨメナを加えた9種

(4)調査方法 豊中市内を33メッシュに区切り(1メッシュはおおよそ1km×1kmの方形枠。小面積の地域は2～3メッシュをまとめて一区分とした)、それぞれがメッシュを1～数区分担当する。各種類1枚ずつの地図を持ち、見つかった場所に赤で株数を○印で囲んで記入する(例、②、⑬等)。9種の地図を持参し、メッシュ内のありそうな場所を歩いて調査する(資料2001年の出現地図を参照にして)。見当たらない場合は無記入にして、表題の横に「なし」と書いておく。(例、「アキノキリンソウ」なし)

③ 調査時の留意点

(1)担当割当 50メッシュのうち自分の担当調査地を1～数メッシュ選ぶ。

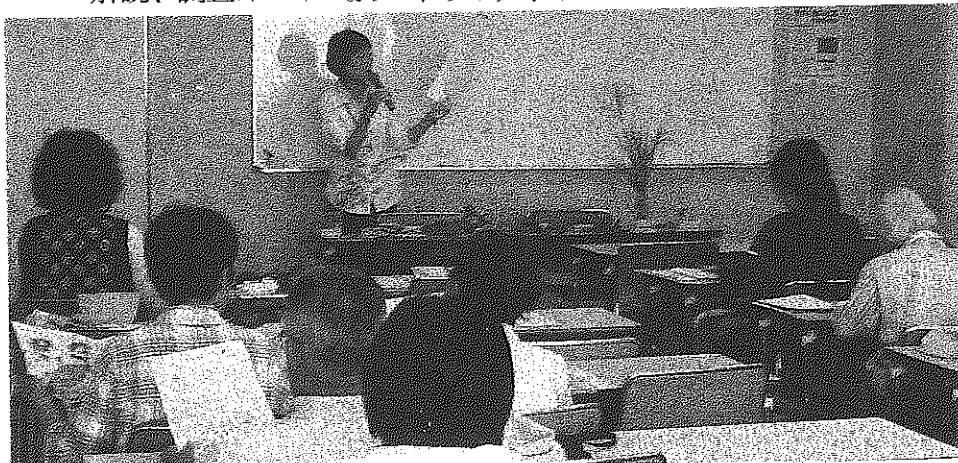
(2)留意点

- ・庭や空き家等に植えてあるものは調査対象としない。
- ・クズ等、株数が数えにくいものは出来る範囲で数える。
- ・ヨメナはノコンギクと間違わないよう特徴を確かめる。

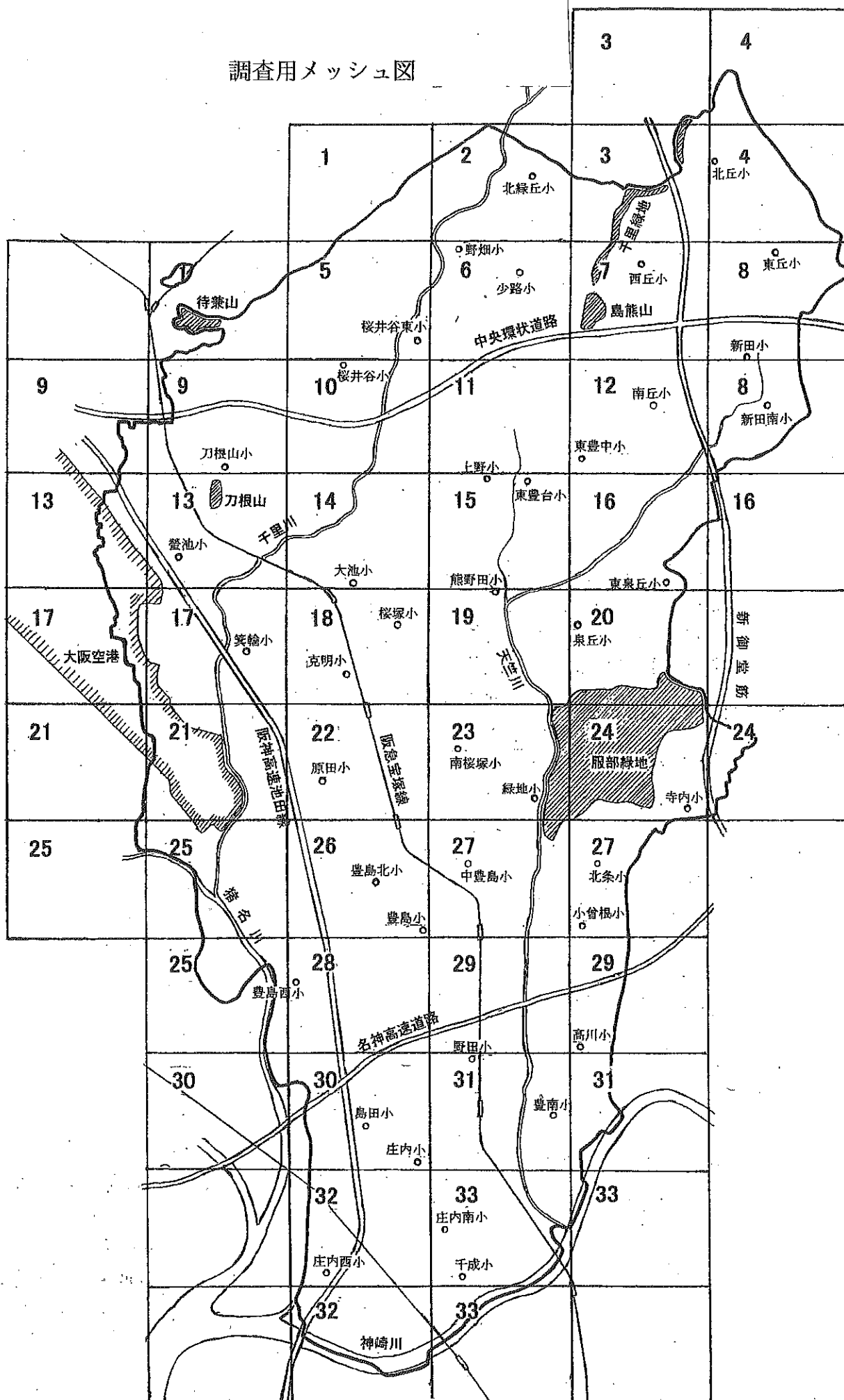
(3)写真 裏に氏名と撮影場所を記入して報告書に同封する。

(4)結果報告 10月31日までに☎561-0881 豊中市中桜塚1-24-20
豊中市立環境交流センター内 アジェンダ21自然部会
宛に送付または持参する。

(5)配付資料 実施要項、メッシュ地図9枚、2000年度出現地図、秋の七草の写真と解説、調査カード(胸に下げる)、ラガールカード



調査用メッシュ図



3. 豊中 秋の七草絵図



① アキノキリンソウ<キク科>
セイタカアワダチソウに比べて背が低く 35~50 cm、枝分かかれし、花の数もずっと少ない。



②クズ<マメ科>
山や土手等に映える大型のつる植物。葉は3枚の小葉からなり茎とともに毛が多い。紅紫色の蝶型花が房状に咲く。



③ススキ<イネ科>
乾いた草原等を好み株立ちする。よく似た植物のオギは河川敷など湿ったところにまばらに生える。



④ツリガネニンジン<キキョウ科>
日当たりのよい草地に生える。葉は3~5枚に輪生し花は紺色の釣鐘状の花を何段にも下向きに咲く。



⑤ヌスビトハギ<マメ科>
藪かげ等に生え茎は直立し 50~60 cm、花はアレチヌスビトハギに比べ目立たない。果実は2個で4~6個のアレチヌスビトハギとは区別できる。



⑥ミゾソバ<タデ科>
水辺に多い。茎は地を這い節から根を出す。葉は鉾型で先が尖る。白色か淡紅色の小花を球状につけ、ソバに似ている。



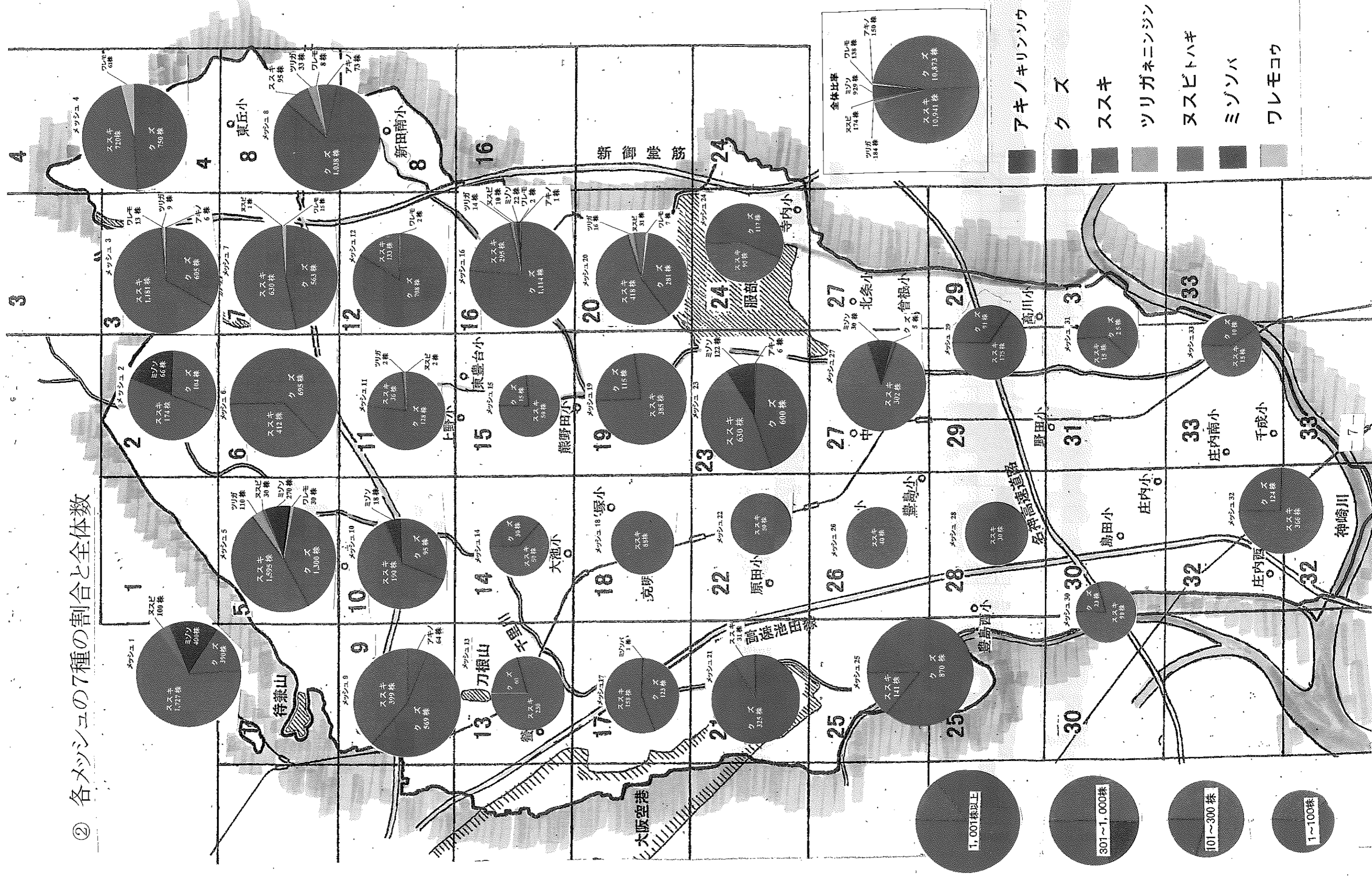
⑦ワレモコウ<バラ科>
日当たりのよい草地に生える。茎は30~60 cmで細く堅い。枝先に1~2 cmの暗赤紫色の実のような花をつける。

4.調査結果

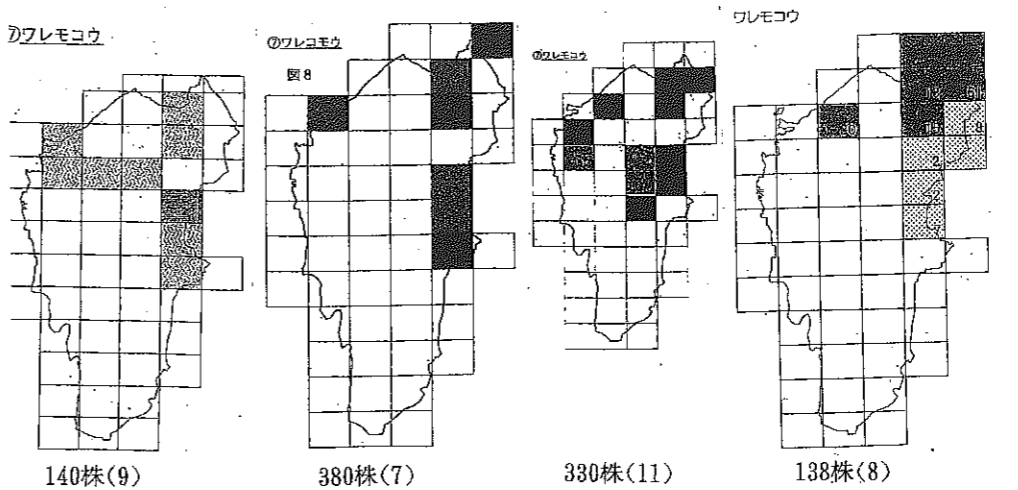
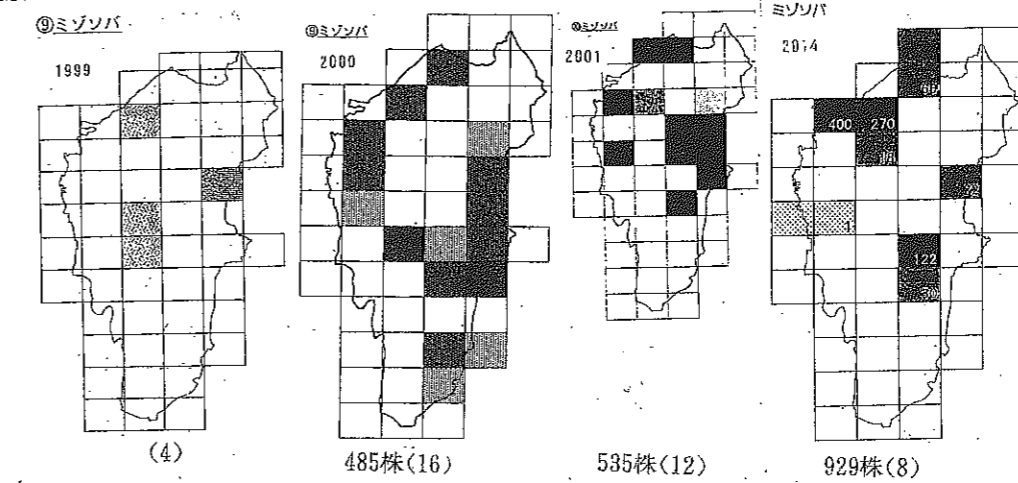
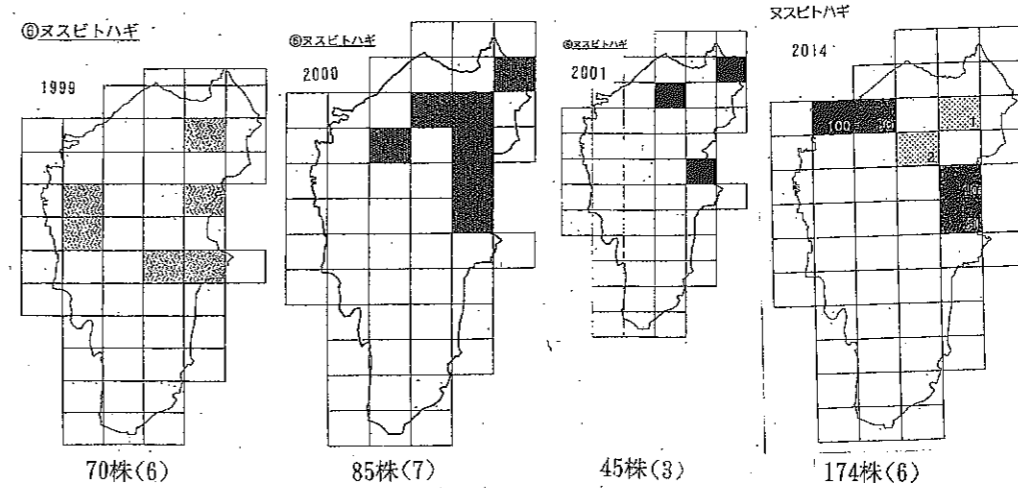
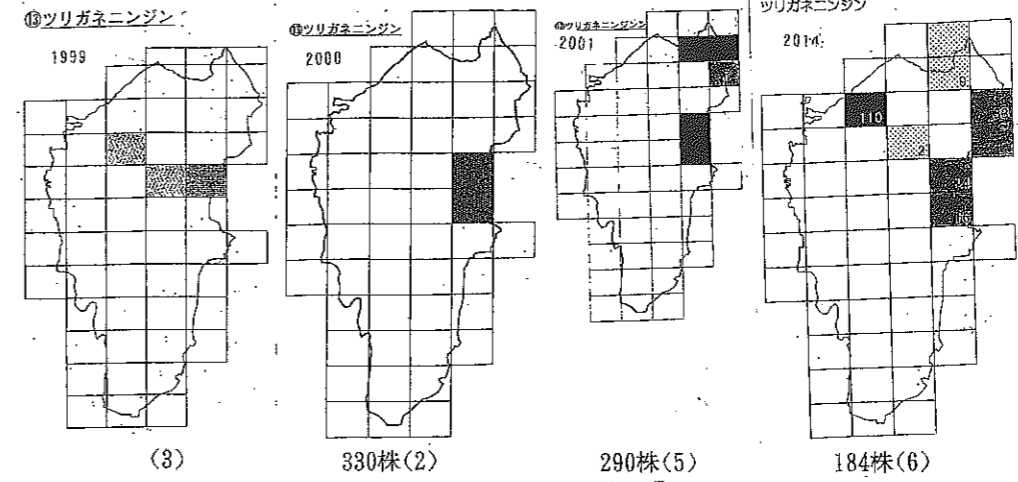
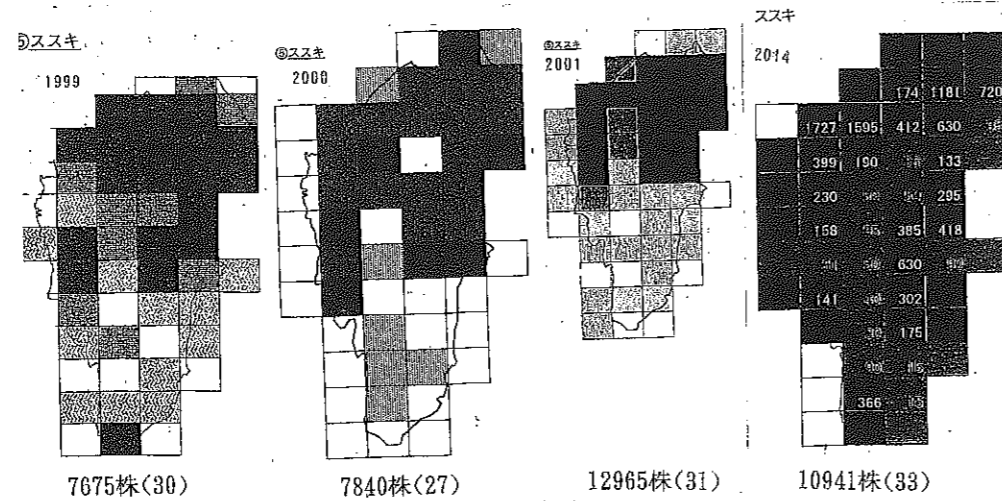
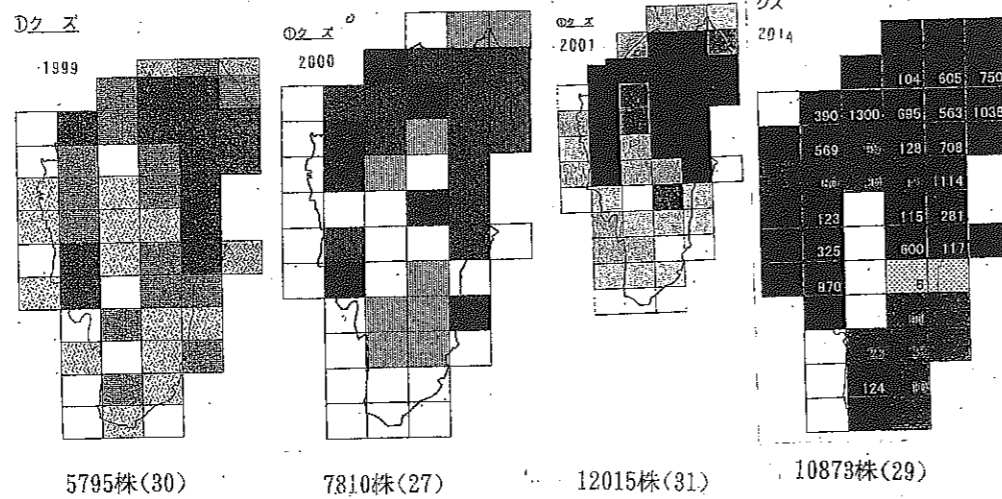
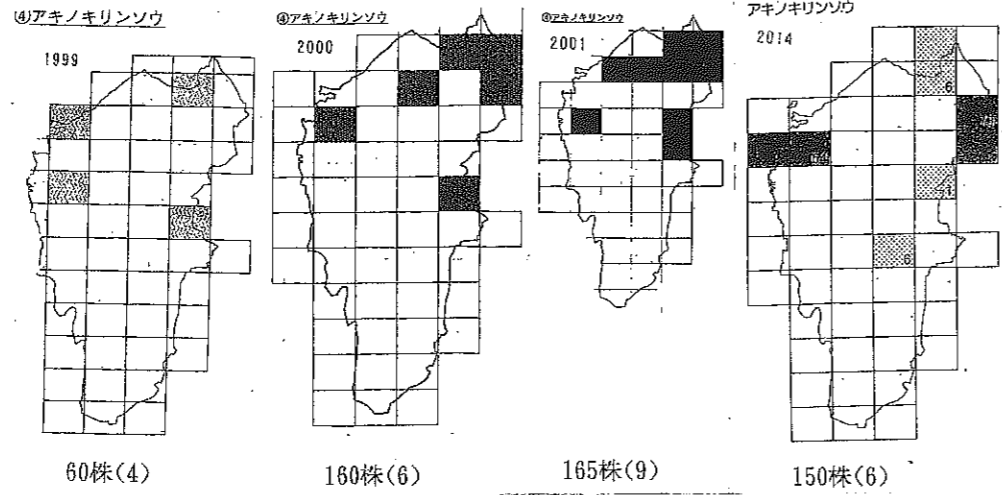
①豊中 秋の七草メッシュ別確認株数

メッシュ 番号	調査地名 (地名一部省略)	アキノ キリンソウ	クズ	ススキ	ツリガ ネニンジン	ヌスビ トハギ	ミソソ バ	ワレモ コウ	7種 計	7種 出現数	セイタ カアワダチ	ヨメナ
1	永楽荘・待兼山	0	390	1,727	0	100	400	0	2,617	4	3,310	50
2	北緑丘	0	104	174	0	0	66	0	344	3	832	0
3	新千里西町・北町	6	605	1,181	9	0	0	13	1,814	5	1,364	45
4	新千里北町	0	750	720	0	0	0	61	1,531	3	1,870	0
5	宮山町・向丘	0	1,300	1,595	110	30	270	30	3,335	6	3,734	488
6	少路・緑丘	0	695	412	0	0	0	0	1,107	2	885	0
7	新千里西町	0	563	630	0	1	0	15	1,209	4	856	0
8	上新田・東町	73	1,038	95	33	0	0	8	1,247	5	1,460	0
9	刀根山・蛍池	64	569	399	0	0	0	0	1,032	3	2,748	135
10	桜の町・上野西	0	95	190	0	0	18	0	303	3	390	101
11	東豊中・上野町	0	128	36	2	2	0	0	168	4	430	0
12	東豊中・南町	0	708	133	0	0	0	2	843	3	2,640	0
13	蛍池	0	60	230	0	0	0	0	290	2	340	10
14	本町	0	30	50	0	0	0	0	80	2	301	7
15	上野・熊野町	0	15	50	0	0	0	0	65	2	675	0
16	東泉丘・南町	1	1,114	295	14	10	22	2	1,458	7	1,369	49
17	箕輪・走井	0	123	158	0	0	1	0	282	3	2,220	31
18	岡町・中桜塚	0	0	88	0	0	0	0	88	1	1,191	42
19	夕日丘・旭丘	0	115	385	0	0	0	0	500	2	470	0
20	西泉丘	0	281	418	16	31	0	7	753	5	818	11
21	勝部	0	325	31	0	0	0	0	356	2	428	11
22	原田中町	0	0	50	0	0	0	0	50	1	130	6
23	長興寺	6	600	630	0	0	122	0	1,358	4	2,000	88
24	服部緑地	0	117	90	0	0	0	0	207	2	183	183
25	原田南町	0	870	141	0	0	0	0	1,011	2	2,830	0
26	利倉・曾根南町	0	0	40	0	0	0	0	40	1	130	0
27	服部・北条町	0	5	302	0	0	30	0	337	3	360	0
28	上津島・服部南	0	0	30	0	0	0	0	30	1	100	0
29	稲津町・小曾根	0	91	175	0	0	0	0	266	2	2,520	0
30	庄内	0	23	90	0	0	0	0	113	2	154	0
31	豊南町	0	25	15	0	0	0	0	40	2	170	0
32	庄本町・島江町	0	124	366	0	0	0	0	490	2	487	0
33	三和町・千成町	0	10	15	0	0	0	0	25	2	335	0
	合計	150	10,873	10,941	184	174	929	138	23,389		37,730	1,257
	出現メッシュ数	5	29	33	6	6	8	8			33	15
	空白メッシュ数	28	4	0	27	27	25	25			0	18

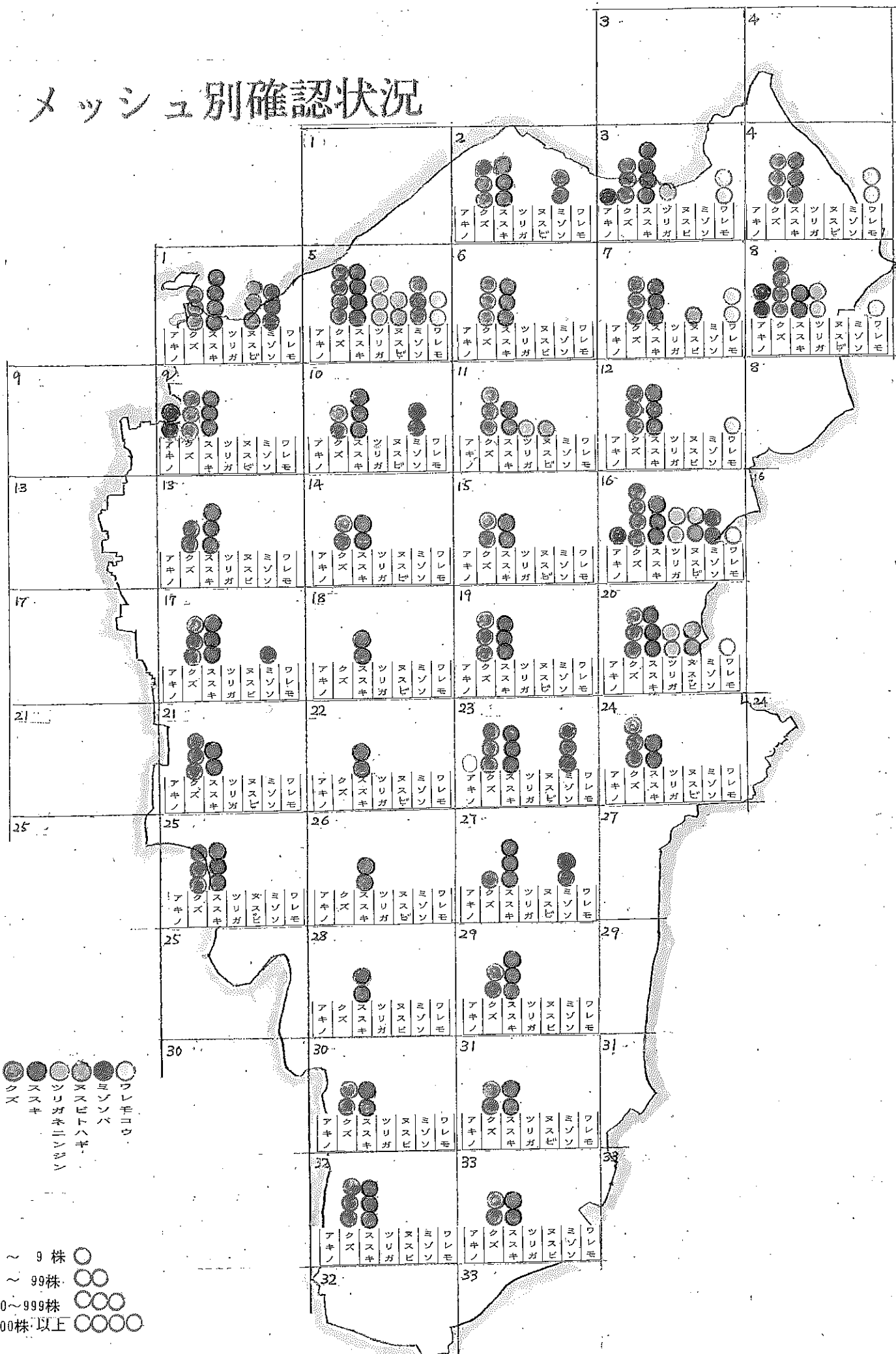
② 各メッシュの7種の割合と全体数



③ 7種分布状況の推移



④ メッシュ別確認状況

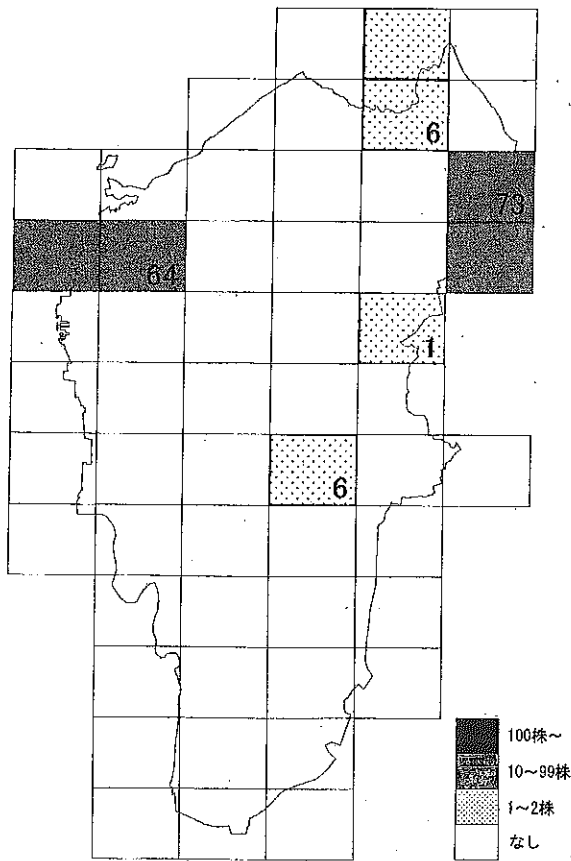


● アキノ
 ● クズ
 ● ススキ
 ○ ツリガ
 ○ ヌスビ
 ○ ミソソ
 ○ ワレモ

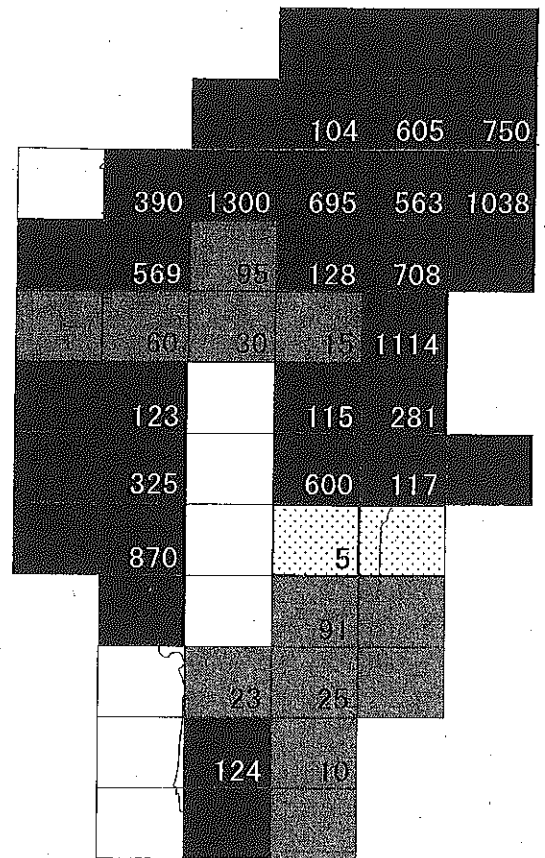
1 ~ 9 株 ○
 10 ~ 99 株 ○○
 100 ~ 999 株 ○○○
 1000 株以上 ○○○○

⑤ 7種の分布状況

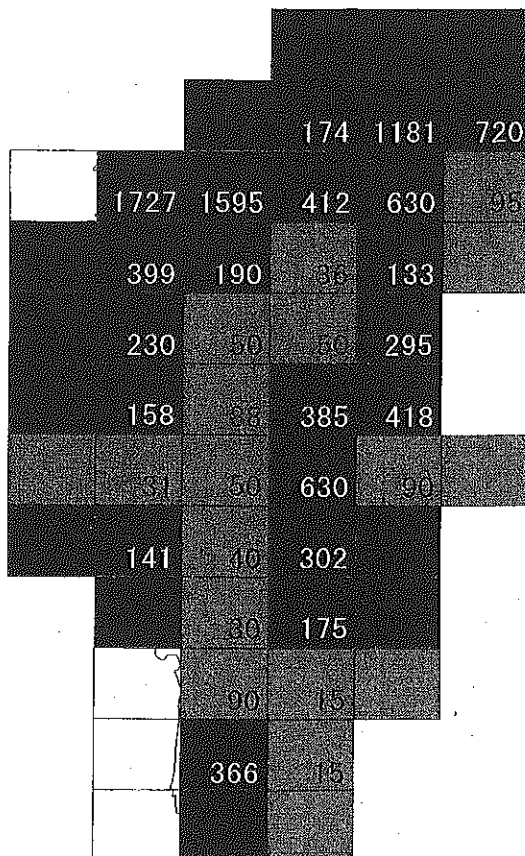
アキノキリンソウ



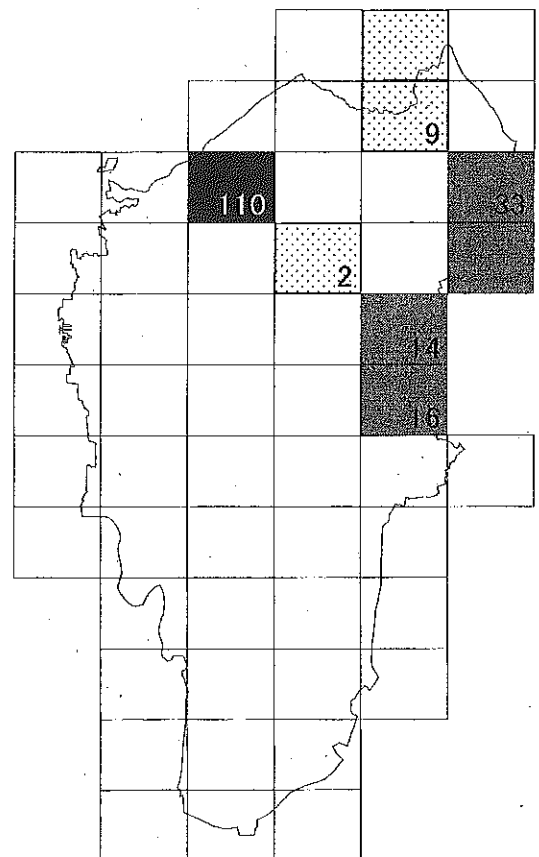
クズ



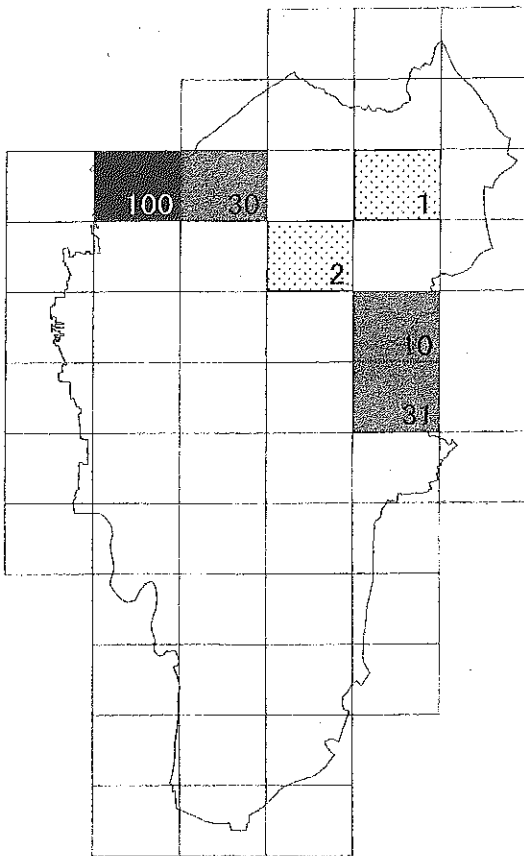
ススキ



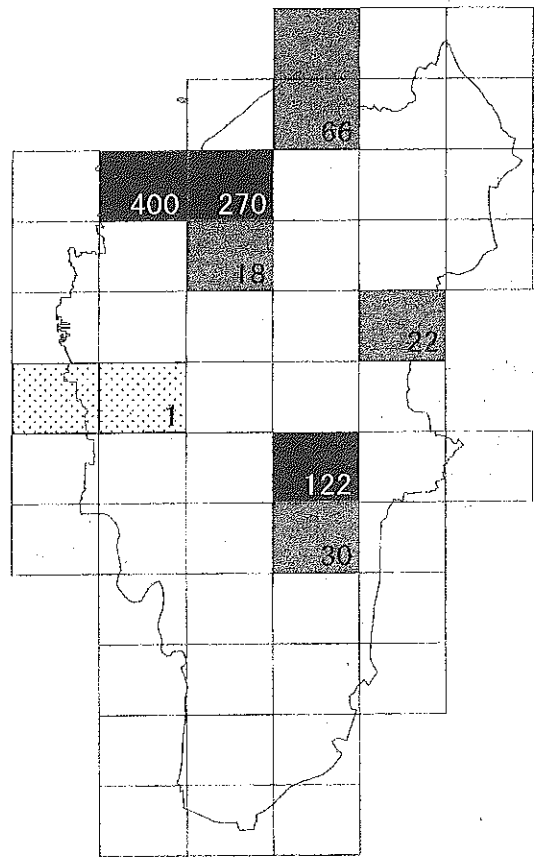
ツリガネニンジン



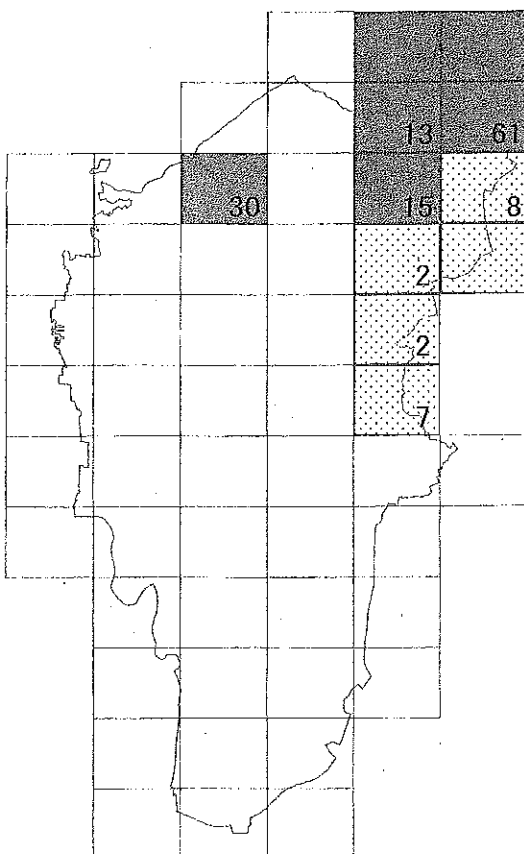
ヌスピトハギ



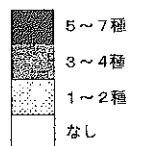
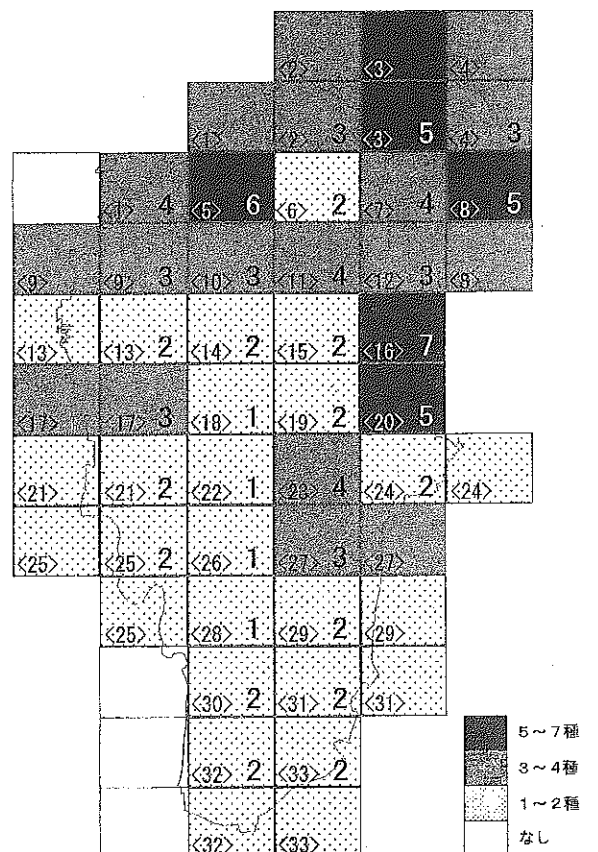
ミソソバ



ワレモコウ



出現種数



⑥確認株数の推移

	1999年	2000年	2001年	2014年	2014/2001 (%)
アキノキリンソウ	60	160	165	150	90.9
クズ	5,795	7,810	12,015	10,873	90.5
ススキ	7,675	7,840	12,965	10,941	84.4
ツリガネニンジン	—	330	290	184	63.4
ヌスビトハギ	70	85	45	174	386.7
ミゾソバ	—	485	535	929	173.6
ワレモコウ	140	380	330	138	41.8
7 種 計	13,740	17,090	26,345	23,389	88.8
セイタカアワダチソウ	—	16,375	33,950	37,730	111.1
ヨメナ	—	—	—	1,257	—

※太字は増加



ツリガネニンジン 東泉丘4丁目

5、調査結果の分析と考察

① 各種分布状況の考察 ～前回（2001年度）との比較～

(1) アキノキリンソウ

日当たりの良い丘陵地に生えているセイタカアワダチソウに似ているが、背が低くこんもりとした頭状花をつける。前回 2001 年が 165 株に対して今回 2014 年は 150 株で 15 株の減少であった。前回の 9 メッシュから 5 メッシュとなった。

<8>の千里中央公園で 73 株、刀根山高校のある<9>で 64 株の 2 か所で 91.3%と大部分を占めている。少ないながらも他に<3>の千里緑地と<23>の服部緑地がいずれも 10 株以下、<16>の東泉丘は僅か 1 株の確認であった。前回存在した<5>宮山町、<9>刀根山病院では今回は確認出来なかった。出現数は 5 メッシュのみと全 7 種を通じて最少である。

(2) クズ

クズは存在する所にはまとまってあるが、地面を這い覆ってしまうので実際はカウントしにくい面もある。今回は約 11000 株で前回に比べ 1000 株の減少である。

多かったのは<3.4.7.8.12.16>の新千里全域で約 4000 株、<5>の宮山町で 1300 株、<6>の少路、<23>の天竺川、<25>の猪名川、<32>の庄本町などであった。

<13、14>の千里川沿いには少なかったが、この付近は調査時に草刈りが行われた形跡があり、もともとなかったのか刈られてなくなったのか判断に迷うところである。概して住宅地には少ないが 29 メッシュで見られ、大勢としては前回と比べて変化がなかったものと思われる。

(3) ススキ

お月見など秋の七草には無くてはならない存在である。今回調査の中で全メッシュ 33 か所で確認され市内どこでも見る事が出来た。圧倒的に北部に多く千里地区で約 3000 株、<5>の宮山町で 1600 株、<6>の西緑丘で 410 株は前回と変わらない。その他<20>の東泉丘、西泉丘、<23>の天竺川沿い、<9>の待兼山に多い。また<27>の高川沿いや南部では<29>の豊南町、<32>の旧猪名川沿いでも見られる。ただ今回の実際の数では約 11000 株で前回に比べて 2000 株の減少であった。

減少したところは<14>の千里川沿い、<17>の箕輪、<6>の上野坂、<11>の東豊中団地、<8>の上新田などであるが殆んどが開発によってなくなったものと思われる。7 種全体で見ると最大株数であった。前回と比べてあまり変化がなかったと思われる。

(4) ツリガネニンジン

豊中では稀少種とも云える種で秋に紫色の鐘状花を垂れ下げる。前回の 290 株から 184 株と 106 株も減少した。前回の 5 メッシュから今回は 6 メッシュであった。

今回見られた 6 か所ははじめて確認された<5>の向丘が 110 株で最多、<8>の千里中央公園で 33 株、<20>の西泉丘で 16 株、<16>の東泉丘で 14 株、<3>の千里緑地で 9 株、<11>の上野坂の 2 株であった。今回確認出来なかったところは<4>の新千里北町である。

減少傾向から保護が必要な種である。

(5) ヌスビトハギ

元来数の少ない種であるが淡紅色の蝶形花をつけ果実は2節で半月形である。前回は3メッシュと少なかったが今回は6メッシュであるが、1株、2株というところが2箇所あった。

前回の45本に対して今回は174本で約4倍近く大幅に増加したことは喜ばしいことである。<1>の大阪大学構内は前回は未確認と思われるが100株見つかった。他には<20>の服部緑地で31株、<5>の宮山町で30株、<16>の上新田などで見られたが、前回存在した<20>の西泉丘、<4>の新千里東町では確認出来なかった。保護が必要な種である。

(6) ミゾソバ

茎には下向きのとげが生えて水辺や湿った場所に存在する。前回は12メッシュで535株、今回は8メッシュで929株と株数では大幅に増加した。

多かったのは<1>の春日町で400株、<2、5>の千里川沿いで336株、<23>の天竺川緑橋近辺、<16>の東泉丘、<10>の千里川沿い、<27>の高川沿いであった。なくなったところは<20>の西泉丘、<12>の東豊台、<15>の熊野町、<9>の刀根山でいずれも開発などによるものである。

(7) ワレモコウ

数の少ない種で秋ごろ枝先きに暗赤色で円頭状の花穂をつける。前回330株で今回は138株と大幅な減少であった。前回の11メッシュから8メッシュとなり7種のうち最少株数である。存在個所は<4、8>の千里中央公園で69株が最多、<5>の向丘30株、<3>の新千里北町、<7>の千里緑地、<20>の東泉丘などに存在する。

なくなったと思われる所は、<13>の刀根山、<16>の新千里南町、<23>の服部緑地、<1>の待兼山であった。調査時には確認が難しくなる場合があり保護策をとる必要である。

(8) セイタカアワダチソウ

七草の中には入れてないが前回と比較した場合に、どのような変化が見られるかという調査である。全体としては37730株で前回より約3800株の増加である。

かつての猛烈な勢いからすると少し落ち着いたかに思われたが、調査では微増でまだまだ勢いが収まっていないようだ。全メッシュ33か所で見られた。<26>の利倉、<33>の日出町の阪急電鉄斜面、<3、4>の新千里北町などで増えているが、<11>の東豊中団地、上野坂などでは開発のため減少した。

(9) ヨメナ

これも七草の対象ではないが、水辺や山野の湿ったところに生える野草の中から選んだ。現在どのような状況下にあるかを調べるものである。似ているノコンギクとの違いを考慮しながらの調査である。ノコンギクには4~5mm程度の冠毛があるがヨメナにはない。

前回は調査を行っていないが今回は全体で1257株であった。多かったのは<5>の春日町で488株、<23、24>の服部緑地271株、<9>の刀根山、<10>の桜の町、<16>の東泉丘、<17>の走井、<18>の大門公園など15メッシュであった。ただ、南部では全然見られなかった。

② 調査結果から分かること

春の七草はどちらかといえば田畑に関する植物が多いのは、主に食に関係するためであるように思われる。これに比べて秋の七草は山里に咲く草花が主になっている。このうち「キキョウ、ナデシコ、オミナエシ、フジバカマ」は豊中では自然に生育しているものはないので、「豊中 秋の七草」としてクズ、ススキに加え豊中では希少種となったアキノキリンソウ、ツリガネニンジン、ヌスビトハギ、とミゾソバ、を入れて7種とした。

これは前回(2001年)までの3回の調査でも同じであるので、これと比較する意味もあり決定した。前回まではこの7種以外に(裏番?)としてさらに7種の植物を調査しているが、今回はこれをセイタカアワダチソウ、ヨメナの2種にした。

調査結果を見ると 7種全部が見られたのは〈16〉の1メッシュ、6種見られたのは〈5〉の1メッシュ、5種見られたのは〈3〉〈8〉〈20〉の3メッシュである。逆に1種しか見られなかった所は〈18〉〈22〉〈26〉〈28〉の4メッシュでススキだけである。2種しか見られなかった所は〈6〉〈13〉〈14〉〈15〉〈19〉〈21〉〈24〉〈25〉〈29〉〈30〉〈31〉〈32〉〈33〉と13メッシュあり、種類はクズとススキである。7種、6種見られた所は豊中では植物相の豊かな自然度の高い所といえる山や林を含む地域である。1種、2種しか見られなかった所は住宅地や工場、倉庫などの多い地域で植物相からいえば 自然度の低い地域といえる。

(1) 7種出現メッシュ数の前回との比較

	7種	6種	5種	4種	3種	2種	1種	0種	計
2001年メッシュ数	1	1	4	4	9	12	1	1	33
2014年メッシュ数	1	1	3	4	7	13	4	0	33

7種出現メッシュ数を前回と比べて見ると大きな違いはないように見えるが、5種見られた所が4から3に減って、1種だけの所が 4に増えたことは危惧される。現在の市内で5種以上見られる所は植生の豊かな地域である。それが1つ減りススキしか見られない所が3つも増えた。前回から10年余りで豊中の自然はさらに失われていることが分かった。私達はこれからも引き続いて自然を守り、自然をよみがえらせる努力をしなければならない。

(2) 株数とメッシュ数の推移

	2000年	2001年	2014年
① アキノキリンソウ	160 (7)	165 (9)	150 (5)
② クズ	7810(30)	12015(32)	10873(29)
③ ススキ	7840(31)	12965(32)	10941(33)
④ ツリガネニンジン	330 (3)	290 (5)	184 (6)
⑤ ヌスビトハギ	85 (7)	45 (3)	174 (6)
⑥ ミゾソバ	485 (6)	535(12)	929 (8)
⑦ ワレモコウ	380 (7)	330(11)	138 (8)

数字は株数
()メッシュ数

①のアキノキリンソウを見ると株数はわずかに減っているが、それよりもメッシュ数の減少が大きい。これは生育環境が変化したことで、ネザサが増え過ぎていたり、周辺の樹木が伐り払われてしまったりして、生育環境が変わったことが原因と思われる。

②③のクズ、ススキについてはほとんど同じような推移(2001にはぐっと増え今回は減少)を示している。7種の中では株数が群を抜いており、保護を要する他の種とは違った扱いが必要になってくる。

④⑦のツリガネニンジン、ワレモコウは株数が前回減少し今回さらに減少していることである。この2種は生育環境が同じで田んぼの畦などによく見られる植物である。株数が減ったのは住宅地としての開発と、新しい道路の開通によって生育地が失われたことである。

⑤のヌスビトハギについては前回まで調査出来ていなかった鍵の掛かった緑地帯などにカシナガ(ナラ枯れ)の調査に入ったとき多く見つかったものである。

⑥のミゾソバについてはメッシュ数が減っているのに株数が大幅に増えている。これは千里川沿いの向丘近辺での増加が大きい。

以上結果から見てきたことは、豊中秋の七草はクズ、ススキを除いて多くは豊中の希少種植物であり、今後ともしっかり守って行く必要があると思われる。

(3) 7種以外の2種について

セイタカアワダチソウは戦後全国的に猛威を振るった外来種で、空き地という空き地を覆い尽くすほどで他の植物を圧倒した。またこの花粉は花粉症や洗濯物の被害などさまざまな所に影響を及ぼした。現在はひと頃のような勢いはなくなっているようであるが、その状況を知りたい(前回までにも調査されている。) ヨメナについては秋に咲くキクの仲間で、ノコンギクとよく似ているが、ノコンギクが山辺に生育しヨメナに比べすこし大きく、葉にややあい毛があり冠毛が見られるが、ヨメナは湿った田んぼの畦などに生え食べられることのできる植物で、山の近くでなくても見られることで取り上げた。

セイタカアワダチソウは全メッシュで多数見られ、その総数は7種合計の23389株の1.6倍の37730株。9種全体の実に60%強に当たる。メッシュ毎に見ると3000株台が2メッシュ、2000株台が6メッシュ、1000株台が5メッシュ、少ないところでも100株台が6メッシュ、300~999株が14メッシュ、とやはり強い勢力を維持しているといえる。これからも放置すれ

セイタカアワダチソウ

		3310	832	1364	1870
		3734	885	856	1460
		2743	390	430	2680
		340	301	675	1368
		2220	1191	470	818
		428	130	2000	183
		2830	180	360	
			100	2520	
			150	170	
		489	335		

ヨメナ

		50	0	45	0
		488	0	0	0
		135	101	0	0
		10	7	0	44
		31	42	0	11
		11	6	88	183
		0	0	0	
		0	0	0	
		0	0	0	
		0	0	0	

ば以前のようになることも考えられるので注意が必要である。

ヨメナは今回初めて取り上げたもので15メッシュで1257株確認された。多く見られたのは市の北西部から中部にかけてと東部の辺りである。南部の水田が残っている辺りにも期待したが記録はなかった。

6.おわりに

2014年の豊中秋の七草調査では、32名の市民調査員が活動してくれました。ここで改めてお礼を申し上げます。そのなかにはガールスカウト・テnderクラス(幼稚園・保育所年長組)の参加がありました。彼女らがこれからも名もない草花にまで興味を持って、自然の仕組みや生物存在の意義を考えてくれる、大人になってくれるといいなと思っています。

十年一昔といいますが、1999～2001年の3年にわたり調査した前回と比較しますといろいろ分かってきました。2001年との比較は「5.調査結果の分析と考察」をご参照下さい。

前回でもすでに、多くの種が北中部に多く、戦後急速に開発が進んだ南部では存在が希薄になっていました。今回の調査ではさらにそれが顕著になり、北中部に残っていた自然も、どんどん住宅の開発等で姿を消している事実が歴然としています。

わずかに残された自然、またわずかに残されている種の保存は今後の課題として、多くの市民の理解と協力を得るための活動を強化しなくてはならないと、改めて身が引き締まる思いです。

希少種の保護に関しては、豊中市と協働し、開発の規制や保存のための移植場所の確保、目印の設置による刈り取り防止などを含め、取り得る策を可能な限り取っていくことで、多くの市民が豊中に心からの愛着を感じてもらえる自然環境を確保できれば、と考えております。



ヨメナ 北桜塚4丁目

7. 調査協力者の感想

メッシュ 1、5 : 馬淵康子

担当地区は、まだ田畑が一部残っていて野草の多い地域だ。一回りすると、クズ・ススキ・ツリガネニンジン・セイタカアワダチソウ・ヨメナが見つかった。

ミゾソバは図鑑に花期 8 月～10 月とあった。やっと 10 月 12 日野畑公園の横の千里川で花を見つけた。その後千里川のあちこちで見かけ畑の畦でも見かけるようになった。

前回の調査からヌスビトハギは春日神社に、アキノキリンソウは阪大のカフェテリアの横にあると情報を得て見つけることができた。

春日神社で調査の挨拶を宮司さんによると「岡恒夫さんから豊中ではめずらしいのがあるから大事にしてください」と言われているとお聞きした。その場にヌスビトハギがあり、森の方で二ヶ所見つけた。帰りに神社の奥さんに境内の笹のところと森にヌスビトハギがあると伝えた。

阪大の広い森にはススキ・セイタカアワダチソウ・クズ以外にまだ何かあるだろうと箕面市の境から待兼山の三角点を目ざして森の中へ入ると、木漏れ日の差す平坦なところにヌスビトハギの群生を見つけた。近くにアレチヌスビトハギも少しみかけた。人通りのない所だ。ワレモコウは、とうとう見つけられなかった。

メッシュ 3、7、32 : 易 寿史、易 信子

メッシュ 3 は夫と共に千里緑地とその周辺の集合住宅、学校、公園などを主に調べました。

13 年前の調査時に見つけたワレモコウが、同じ場所で少し広がって咲いていたのは感動でした。アキノキリンソウは千里緑地の尾根道 3 カ所に点在していますが、日当たりが悪いせいか年々少なくなっています。

メッシュ 7 は島熊山緑地、新千里南町、上新田、千里中央等ですが、驚いたのは上新田の天神社周辺です。以前歩いたのどかな竹林風景がすっかり消え失せてマンションが幾つも建ち並び、新しく出来た公園で新住民がくつろいでいます。「今浦島」になったようでした。ここで見つかったのはススキとセイタカアワダチソウだけでした。

メッシュ 32 は豊中の最南端の地。この辺に詳しい上田さんと歩き、ススキ、クズの群生も見ることが出来ました。神崎川べり、旧猪名川べりで主に確認しました。古い神社や寺、公園などありそうな場所も探しましたが、下草まできれいに刈り取られ、野草が存在する余地もなく、残念でした。

メッシュ 4、23 : 三宅史郎

今回は新千里北町と天竺川沿いを中心としたメッシュ 23 を調査した。北町は住宅地が多く希少種なものは千里中央公園のワレモコウだけであった。

市中央部の天竺川では中洲でミゾソバとヨメナをまた、服部緑地にはフェンス内にヨメナ、アキノキリンソウ、ミゾソバを見つめることが出来た。常に双眼鏡を持参していると遠くのものははっきり見えるし、それに数も正確性が増すので調査には必携である。やはり自然が残っているところの調査は、何があるか期待が持てるし探している時間も楽しく感じた。

メッシュ 6 : 社ひとみ

担当区域でヨメナを見つけて、その先（担当区域外）で農作業をされているおじさんに出逢った。後から聞くとその方は知る人ぞ知る希少種スポットを耕作していて、その方自身も知る人ぞ知る存在だった。そうとは知らず、こちら素性をあかし、調査目的を説明して伝えると、入っただけでと、どんどん奥へ案内してくださった。一つ一つの植物に感嘆の声をあげた。ツリガネニンジン、ミゾソバ……「こんなの私の担当区域にあるわけないでしょう」偏見で調査が始まったが、商業施設が立ち並ぶ幹線道路から1本入ったところに楽園があった。「小さい頃はあれも、これも食べていたよ」ご出身は山形とのこと。思わぬ山菜談義にも花が咲いた。

帰り際に聞いた「今年でこの畑を借りるのも最後になるかもしれない」来年（2015年）には、地主さんが売却するかもしれないとのことだった。また、一つ豊中の希少種が消えていくことになるのだろうか。悲しい話だったが、おじさんとの出会いが心あたたまる思いだった。七草調査に参加して、道草もできたこと、感謝します。

メッシュ 8、12 : 吉見清之

10年ほど前の調査を思い出しながら、延べ15日ほど担当区域を歩き回りました。しかし、正直なところ残ったのは「くたびれもうけ」だけのような空爆たる気持ちです。

というのは、前回の調査でもすでに、担当区域の自然はいくらも残っていない、という思いでしたが、今回はさらに自然破壊は進んだという実感でした。

① 前回との比較

- ・クズについては、ほとんど変化がないように感じました。ただ、天神社付近の竹藪が開発されたので、その場所から姿を消した程度でした。
- ・ススキは前回もう少し、たくさんの場所で見かけたと記憶しています。
- ・セイタカアワダチソウは少なくなったと思っていましたが、くまなく歩いてみますと、依然としてその勢力は旺盛に感じました。少なく感じたのは、以前はほとんど管理が行き届かない空地が各所にあったのが、近年は、何らかの形で除草が行われ、花が咲き乱れる前に刈り取られることが多く、花が目につきにくくなった。

② 雑感

- ・前回との比較を最後に書きましたが、次回の調査（あるかどうか、何年後になるか分かりませんが～自分が参加できるかどうか）には、希少種については、今回調査の株数を記入したコピーを参照できるようにしてもらおうと、追跡調査がしやすくなるのではないのでしょうか。

メッシュ 9、32 : 上田峯子

メッシュ 9は学校と幹線道路の多い地区です。大阪大学の西正門から理学部までと、府立刀根山高校、刀根山小学校、第十八中学校の半分等があり、緑が豊かな地区と思っています。前回の調査でデータでミゾソバがかなり在る筈なのですが、1株も見つけることが出来ず真に残念でした。しかし、校内に入れていただき調査した刀根山高校は豊かな自然が残されていて、校舎東側にある里山林に沿ってアキノキリンソウが咲き乱れている風情はとてもいいなと思いました。

易さんと担当したメッシュ 32では神崎川河川敷の植生に期待しましたがクズが僅かに見られたのみでした。しかし庄本町の旧猪名川の土手にススキの群落があり、穂が陽の光に美しく映えていました。歴史ある地域にふさわしい光景でした。



ミゾツバ 小曾根2丁目(高川)



アキノキリンソウ 千里中央公園



ヌスビトハギ 東豊中6丁目



ワレモコウ 新千里西町2丁目

メッシュ10 : 大倉信行

始めは、七草の名前も実物とが判らないものも少し有り、頂いた資料を見ながら自分の地区に行つて、まず見つけたのは、クズ・ススキ・セイタカアワダチソウで後はなかなか探せられず3、4回違った所、コースを変えて行つても駄目で、1週間過ぎた頃、良い情報を教えて頂き、まだ稲を育てて居る所の畦に行き、ヨメナがいっぱい群生しミゾソバも有り見つけられて、嬉しく楽しくなりました。そこにはススキ・セイタカアワダチソウも有り10日後提出の写真を書しにいくと、花も見られ楽しい調査になりました。でも見られ無いのも有り少し心残りでしたが、充実した秋の七草調査でした。ありがとうございました。

メッシュ11 : 杉山栄子、杉山正実

今回はじめて七草調査に参加した。一緒に調査をした家内からいろいろ教わりながら、4、5日かけて町内を自転車で走り回った。

担当地域で多く自生していると思っていたヌスビトハギはほぼすべてがアレチヌスビトハギで、結局二株だけが調査対象であることに驚いた。それも自生しているというよりも、誰かが移植したような感じがする。また、セイタカアワダチソウに圧倒されているだろうと思っていたススキはそう簡単に負けていないことに気付かされた。公園、道端に自生している草は単なる雑草としか思っていなかった私にとって、自然の草花に関心をもつ良い機会を頂いた。感謝である。

メッシュ13 : 服部貞夫

担当地区が阪急蛍池駅周辺から、東は刀根山病院、西は大阪空港の東側の広い空地付近までの地域図鑑を片手にカメラで証拠の証しにと歩き回った。

「ススキ」と「セイタカアワダチソウ」はすぐ見つかるのだが、他の種についてはなかなか見つからない（知らないから？）大変な調査に参加したものだをつくづく反省しきり！！

結果はこれでよかったのかといささか不安です。

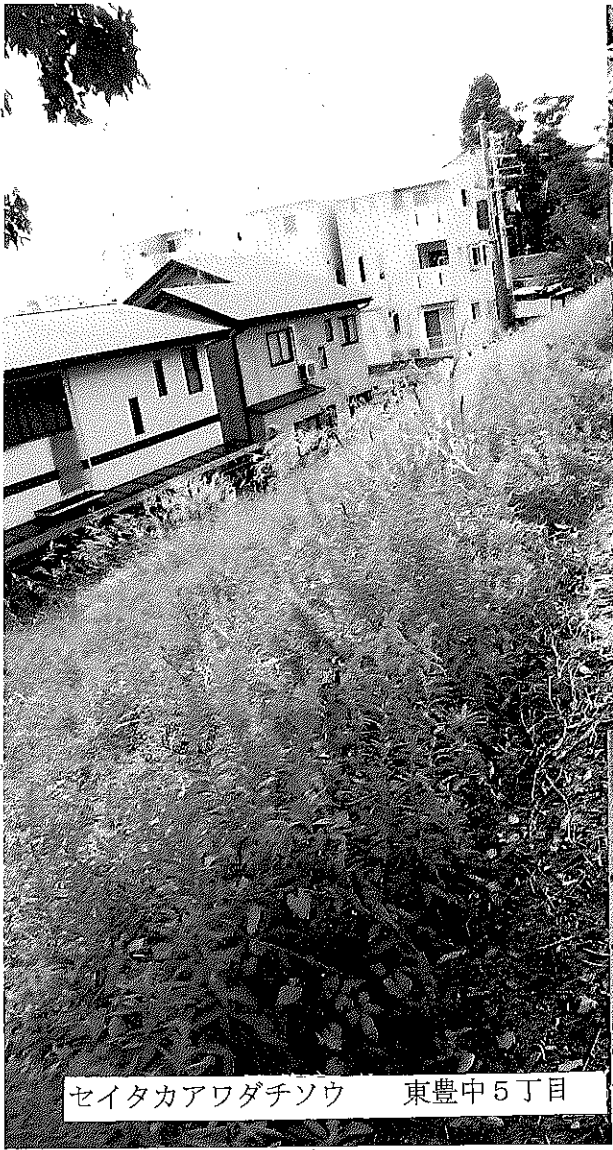
メッシュ14 : 齋藤 明

担当地区は市街地なので、野草は少ないと予想していたが、これほど少ないとは思わなかった。クズさえもほとんど見当たらず、空地や駐車場の縁などにセイタカアワダチソウが繁茂しているだけで、ススキが4ヶ所、クズもヨメナもわずか1ヶ所しか見られずさびしい思いをした。

メッシュ15 : 岡 秀子

シャレール東豊中の東側の空地は草刈りが終わっていた。ススキはマンション南東の角に10株ほどのびのびしている。八坂神社の東北草地に大株があるが細々としてさみしい。クズはマンションの角にありフェンスにからまり地面をおおい成長がものすごい。東豊中保育所、老人憩の家、デイサービスセンターの南側の日当たりのよい空地にセイタカアワダチソウが広範囲に群生していておどろいた。人手がはいらなくなったのだろう。





セイタカアワダチソウ 東豊中5丁目



ヨメナ 千里緑地第1



ミゾソバ 桜の町4丁目



ススキ 刀根山1丁目(蛍池)

メッシュ16、20 : 桑島いつ枝

- ・株を見つけた2、3日後には刈り取られてしまう事が重なり、写真に収めるチャンスを失うことが多く残念だった。
- ・一株(たったの!)のアキノキリンソウが、翌日株の上部が折取られ写真に収める事が出来なくて残念だった。
- ・調査の途中(名札を見て)何度か声をかけられた。調査の話をする则在来の植物が沢山残ってほしいと切望する方が多く心強かった。
- ・家の近辺が調査の範囲だったので、40年近く住んでいて足を運んだ事もなかった場所が多いことに初めて気付き驚いた。
- ・3人で受け持った2区画だったが、2人の方が体調や都合で参加出来なくて残念でした。

メッシュ17 : 小泉昌子

田んぼの隅に嬉しい薄紫のヨメナ

家の近くだったので、散歩も兼ねて細い路地などもほんとうによく歩きました。セイタカアワダチソウやグズは千里川沿いですぐ目につきましたが、ヨメナ、ミゾソバはなかなかです。でも、ふと見た田んぼの隅に草と混ざって薄紫ヨメナを見つけた時は嬉しくて…。ここで“発見”がきっかけとなって、あちこちに咲くヨメナと出逢えました。前の調査ではあったミゾソバは川辺、水べりなど目を凝らして探しましたが、見つけれずじまいで心残りでした。

メッシュ18 : K・I

野草の名前を覚えたいのと歩くことで身体にいいのではと調査に参加。

説明会や豊島公園で実物を見たあと、野草の載った本を持って調査開始。しかし簡単には見つからない。さらにインターネットから該当の野草を様々な角度から見た写真を印刷し、見比べながら調査を続ける。

ある日、公園の片隅に1本のヨメナらしき野草を見つけ、確認のため花びら1枚とってヨメナだと確信した時はすごく感動! またある日、別の公園で多くのヨメナとススキを見つけ喜んだが、地図を見ると調査区域外とわかりガッカリ。

調査終盤になってようやく花が咲き出し見つけやすくなった。葉を見ただけではやはり???? 最終的には「ススキ」「ヨメナ」「セイタカアワダチソウ」の3種類を見つけることが出来、ホッとした。最後に要望を一つ、地域地図を新しく鮮明なものにできないでしょうか。

メッシュ19 : 小峯真優、樋上裕一

何度も写真で確認しながら調査しましたが、やはり実際に七草を見つけるのは難しかったです。

「見つけた!」と思ったらそっくりさんだったということが多々あり、一喜一憂していました。私が担当した調査範囲には、ススキやセイタカアワダチソウ、グズが多く、前回の調査と同じような傾向にあったと思います。ヌスビトハギやアキノキリンソウなどの希少な野草を見つけられなかったことは残念ですが、調査に慣れるにつれ、とても楽しみながら探すことができました。

都市化が進む中で、このような野草を目にする機会は少なくなっていますが、今回、さまざまな野草を知ることができ、豊中に残された自然の大切さと、この自然を守っていくことの重要性を再認識しました。

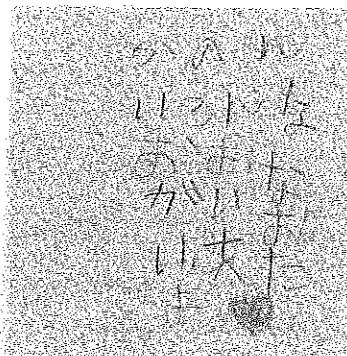
メッシュ21 : 高妻 勲

調査した区域は、千里川を挟んで、立ち入り禁止の伊丹空港の敷地がかなりの面積を占め、あとの大半は中小の工場と住宅が占め、植物が生える土の面積が少なく、田んぼや畑も僅かしか残されていません。

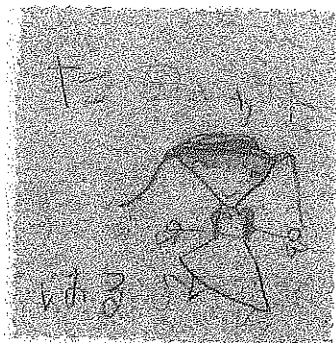
七草の内見つかった種はススキ、クズ、セイタカアワダチソウ、ヨメナの4種のみ。中でもクズとセイタカアワダチソウが圧倒的に多く、自然度はかなり低いと感じました。

メッシュ22 : ガールスカウト大阪11団テングー部門、すがもと そよ、すずき かのん、すずき はるか、三好由美子、大野みゆき

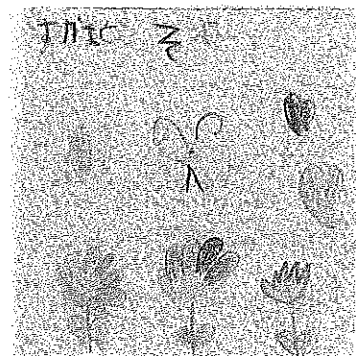
- ・いろいろなおはながいっぱいあったよ。 ・たのしかった。
 - ・この調査ではじめて秋の七草を知りました。普段、何気なく通っている道にも、いろいろな種類の草を発見し、自然を感じることができ、調査に参加できてよかったです。ただ、ススキなどはもっとたくさん発見できると思っていたのに意外と少なく、昔に比べてやはり自然の減少を感じました。
 - ・似たような草花が多くあり、知識があまりないので特定してよいものか迷いました。
- 前回の調査報告と比べ、やはり減少にあるのかなと感じました。調査に参加させていただき以前より草花に目がいくようになりました。



●すずき かのん



●すずき はるか



●すがもと そよ

メッシュ24 : 上原泰雄

3日間に分けて、隅々まで回ったつもりでしたが、勉強不足で、アキノキリンソウ、ツリガネニンジン、ミゾソバは野草がどのような形で生えているのか、花はどのようなになっているのか実際に見たこともなかったので、捜す事が出来ませんでした。ススキ、セイタカアワダチソウ、クズはあちこちに沢山見られたと思います。

メッシュ25 : 小泉 清

秋進み川沿いの土手にススキの穂伸びる

千里川から猪名川沿いに自転車で巡回。半年ほど住んでいた地域でしたが、合流点あたりに繁茂するクズは初めて見ました。花の多い9月中旬に一巡しておいて良かったです。その時は川の中州に群生するオギをススキと間違えて数えていました。10月に水辺から離れた土手などにススキの穂が伸びてきたので、違いがわかるようになり、秋の風情も楽しめました。川沿いを離れると目につくのはセイタカアワダチソウばかりで、あるかと期待していたヨメナも見つからず。やや単調な花模様に感じられました。

メッシュ26、28 : 小原厚子

とよなかの秋の七草調査参加は初めての事で、説明会の時には簡単に出来ると思っていましたが、毎日のように歩いている所、少し遠くまでなかなか歩きました。残念なことにさがしてもみつからず気がつけば「ススキ」と「セイタカアワダチソウ」しかなく心が折れました。

私の子どもの頃の「セイタカアワダチソウ」は土さえあればいきおい良く伸び黄色のあざやかな草でした。しかし歩いて歩いてさがしてみつけた「セイタカアワダチソウ」は工場と工場の中の少しの土にひかえめに咲いていました。時間の流れとはせつないですネ。どうすれば昔の空地一面に咲く「セイタカアワダチソウ」が見れるのでしょうか。

メッシュ27 : 藪本圭一

私の担当した調査エリアは「東西南北」、(東) 豊中ローズ球場～(西) 高川、(南) 旧今西屋敷～(北) 西願寺橋、に至る範囲です。

ほとんどが住宅地であり自然植生の乏しい環境です。比較的緑の多い部分はエリア中央を南北に流れる天竺川の兩岸の堰堤沿いと、西側境界エリアを南北に流れる高川堰堤沿いの部分に限られていました。

調査の結果は、クズ、ススキ、ミゾソバ、セイタカアワダチソウの4種が確認できました。エリア内は限なく回りましたが、これほどまでに植生に乏しく質も量も少なく緑が失われている状況で、失望に近い思いを抱きました。調査に参加させていただき良かったと思えたのは唯一高川堤内の水辺に群生していたミゾソバを見つけほっとした時でした。ミゾソバは30年ほど昔には、市内の水路や溝の至る所に自生していたのが懐かしく思い出されます。しかし農地の宅地化や暗渠工事に伴い湿地を好むほとんどの植物が姿を消しました。

残された数少ない植物を、市民の手で保護し、少しでも増やして子どもたちにも興味を持って親しんでほしいと願っています。

メッシュ29 : 伊藤陽一郎

- ・調査場所は自宅より自転車で片道30分。天竺川、高川、阪急電車、高速道路、幹線道路が交差して複雑な場所だった。
- ・9月中旬に公園はすべて草刈が完了されていた。駐車場、空地も10月29日には草刈が完了されていた。(河川、電鉄周辺共)
- ・七草の状況はススキ、クズ、セイタカアワダチソウの3種以外の七草は確認出来なかった。ススキは3ヵ所ほど点在していたが、数は少なかった。クズは高速道路や川の斜面に集中して生殖していた。セイタカアワダチソウは道路沿い、空地、河川斜面に多く生殖していた。

メッシュ30 : 柿本修一

私の担当区域は、名神高速豊中インターを中心に、今在家～庄内西町にかけてでした。住宅や小工場の密集地であるため、まとまった緑のあるところは少なかったのですが、一部にヨメナの自生地がありました。また、旧猪名川河川敷では一面ススキ群落が拡がり、セイバンモロコシだらけの河川堤防が多い中、一昔前のたたずまいが残っており、なぜか落ち着いた気持ちになれました。

メッシュ31、33 : 山口 壽

国道176から神崎川の神戸線まで堤防を通り、河川敷の遊歩道を高川まで歩く。ここまでで見つけたのは、セイタカアワダチソウとススキ。それも堤防の内側に数株。遊歩道には1株も無い。高川から堤防を歩いていると家のそばにススキが見えた。近寄って見ると斑入りの栽培種。

さらに西に進み千成小学校の南の神崎刀根山線の近くに来ると、道のそばのちょっとした空地にセイタカアワダチソウが数株とか10株以上見つかるが他にはススキも見られない。菰江の公園の周りなど回るがほとんど見られず今日は終わる。

2日目は豊南町東、南、西、浜3丁目を歩く。ここは20年近く通ったところでもあり町並みや知人の家など思い出しながら回る。無い。やっと天竺川沿いを歩いて川底にセイタカアワダチソウが数株ずついくつも伸びて咲いているのが見られただけ。庄内東町を南下し三国東・日出町の辺りの阪急電車線路の斜面に約50~60cmセイタカアワダチソウが一面にさいていた。これくらいの高さだときれいに見える。野田へ向かう途中の小さな児童公園?の隅にススキが1株見られた。浜3丁目の田圃の回りをミゾソバを探したが見つからなかった。

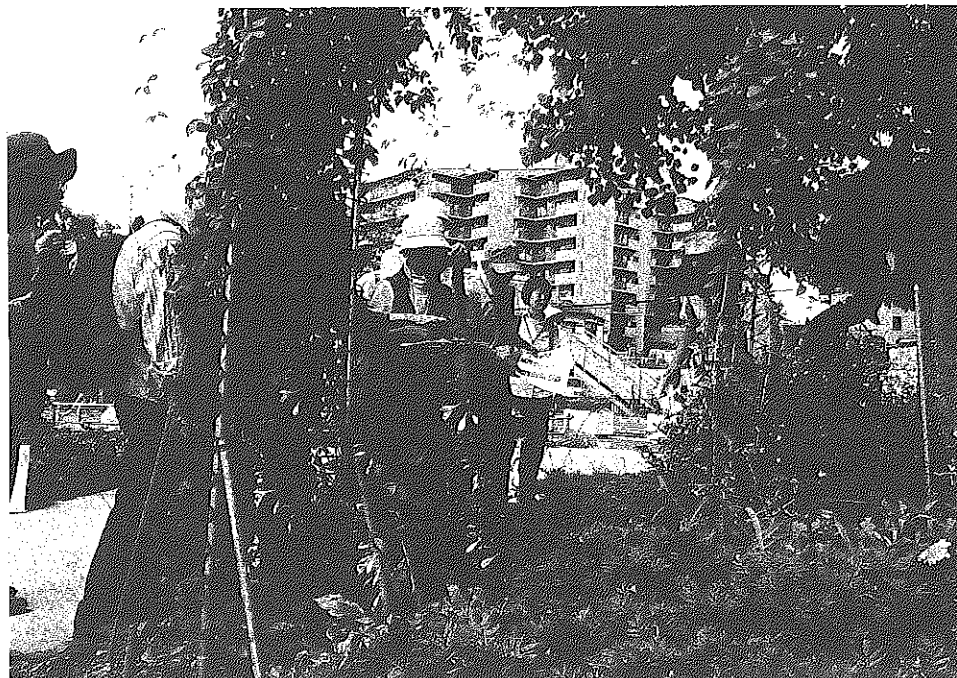
3回目。あまりにも見られた種類が少ないので蛭池東、北、中、南、走井、千里川、猪名川と歩き梶池の南の水路でやっとミゾソバを見つけた。猪名川へ出るまでの千里川沿いではクズが株も分からないほどフェンスにからまっていて今回までの調査で株を数えることについて考えさせられた。



セイタカアワダチソウ 玉井町 (千里川堤)

「豊中 秋の七草調査 2014」調査協力者

池田きみ子 伊藤陽一郎 上田峯子 上原泰雄 易 信子 易 寿史
大倉信行 岡 秀子 ガールスカウト大阪 11 団 (すがもと そよ、
すずき かのん、すずき はるか、大野みゆき、三好由美子) 柿本修一
桑島いつ枝 高妻 勲 小泉昌子 小泉 清 小原厚子 小峯真優
齋藤 明 杉山英子 杉山正実 土田泰子 服部貞夫 樋上裕一
馬淵康子 三宅史郎 社 ひとみ 藪本圭一 山口 壽 吉見清之
(計 32人)



調査種観察会 豊島公園

参 考 文 献

- ・身近な環境調べ報告書 (1999 年度) 豊中市生活環境部環境企画課 編集/発行
- ・身近な環境調べ報告書 (2000 年度) 豊中市生活環境部環境企画課 編集/発行
- ・身近な環境調べ報告書 (2001 年度) 豊中市生活環境部環境企画課 編集/発行

NPO 法人とよなか市民環境会議アジェンダ21自然部会

連絡先：〒561-0881 豊中市中桜塚 1-24-20 環境交流センター内

TEL：06-6844-8611 FAX：06-6844-8668

e-mail：jimukyoku@toyonaka-agenda21.jp

ホームページ：toyonaka-agenda21.jp

* 本事業は豊中市環境交流センター指定管理事業として実施しました